

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

○第3学年「名人に弟子入りふれあいタイム」(35時間)【地域人材・関係機関】

○第4学年「ストップ 地球温暖化」(40時間)【環境】

○第5学年「〇〇家防災計画」(35時間)【防災・減災】

○第6学年「自分さがし(えがこう自分の未来)」(35時間)【未来】

この中から2つの学年の実践について紹介する。

○第3学年総合的な学習の時間「名人に弟子入りふれあいタイム」(35時間)
【地域人材・関係機関】

1 単元名 「名人に弟子入りふれあいタイム」(35時間) 【地域人材・関係機関】

2 単元の目標

地域の方々とふれあい、昔から伝わる遊び・文化などを体験することを通して、自分の地域の理解を深めるとともに進んで関わろうとする態度を育てる。

3 単元の内容

(1) 学習課題

多摩第三小学校は、学校と地域の関わりが深く、子どもたちの有志が集まり地域のお祭りや行事で「ソーラン節」を踊るなど積極的に参加している。地域は、子どもたちにとって、家族や学校以外で様々な年齢層や立場の人と触れ合うことのできる場であり、地域の伝統行事や、継承されてきた文化などは地域の人々の思いや願いが込められている。子どもたちには地域の人たちとの関わりを通して、その思いを知り、自ら地域との関わりを深めてほしい。

1学期の総合的な学習の時間では、「見つけよう伝えよう町じまん」の学習で、児童は自分達の地域の自慢について考え、自慢の場所としていつも利用しているふれあい館やふれあい公園の名前が挙がった。ふれあい館の見学やふれあい公園の自然と触れ合う活動を通して、たくさんの魅力を見つけた。また、公園の清掃活動や魅力を伝えるポスター作りを通して、地域の魅力を多くの人に伝えていきたいと考えようになった。

2学期は、地域の「人」に焦点を当て、ふれあいタイムに来てくださる方々(以下触れ合いの先生とする)と繰り返し関わることにした。「ふれあいタイム」とは、毎年地域のサークル、ボランティア団体が3年生に「お茶・お花」「囲碁・将棋」「昔遊び」「ゲードボール」「手芸」を教えに来て下さっていることを指す。多摩第三小学校の伝統的な活動であり、児童は「ふれあいタイム」をととても楽しみにしている

児童は興味・関心ごとに5つのグループに分かれ、活動自体の楽しさや、ふれあいの先生方の人柄に触れる。ふれあいの先生方の思いに触れて活動する中で、児童は自分たちも精一杯応えたいという思いをもつだろう。また、教えてもらうだけでなく、自分達にもできることを考え、取り組む姿勢をもつことで、ふれあいタイムをより充実させることができると考える。

ふれあいタイムで共感した思いを次第に地域に向けさせていきたい。児童にも地域の一員として、自分達にできることはないかを考え、行動できるようになって欲しいと願い、この単元を設定した。

(2) 学習対象

- ・地域の昔遊び・文化。
- ・昔遊び・文化などの継承に力を注ぐ地域の人々。

(3) 学習事項

- ・地域の昔遊び・文化のもつ特徴。
- ・昔遊び・文化等の継承に力を注ぐ地域の人々の思い。
- ・地域の一員として、地域のためにできることを考え取り組む姿勢。

4 ESDを通して育てたい力

ESD-① コミュニケーションを行う力	ESD-② つながり尊重する態度
地域の人と積極的に関わり、昔遊びや文化について友達と学び合いながら進んで活動することができる。	地域の人たちの思いや願いを知り、地域に対する理解を深めて、自分が地域の一員であることに気付くことができる。

5 成果

毎回の「ふれあいタイム」の目あてを明確にすることで、そのために練習をしたり、調べたりすることができた。また、振り返りの観点を示したことで、次の活動に自ら進んで取り組もうとする姿が見られた。

○第4学年 総合的な学習の時間「ストップ 地球温暖化」 (40時間) 【環境】

1 単元名 「ストップ 地球温暖化」 (40時間) 【環境】

2 単元の目標

身近な環境問題として地球温暖化に目を向け、自分たちの生活との関わりについて知ることにより、よりよい環境にするため自分たちができることを考え、実践する活動を通して、自分たちの生活に生かしていこうとする態度を養う。

3 単元の内容

(1) 学習課題

近年、地球温暖化、集中豪雨や砂漠化、森林破壊、生態系の変化など、地球環境問題は顕在化し、警告を発している。こうした環境問題は私たちの日常生活と密接に関わっている。環境のもたらす恵みを引き継ぐことが可能な社会を実現するためには、社会を構成する個人、家庭、事業者、行政といったあらゆる主体が環境に与えている負荷を知り、自らの問題として認識し、環境保全に主体性をもって取り組むようになることが必要である。

環境教育については、改正後の教育基本法（平成18年法律第120号）において、教育の目標の一つとして、「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。」（第2条第4号）とする規定が盛り込まれ、その重要性が高まっている。総合的な学習の時間において、環境教育を充実させるためには、児童が直接的な体験活動を通して、実感を伴いながら探究的に学んでいく必要がある。環境について体験的に現状を理解し、問題の原因を探り、解決方法を考え行動すること、さらにその結果を振り返り、次なる課題を考える主体的な学習の繰り返しは、総合的な学習の時間でねらう自ら学び、自ら考え、自ら行動する力をはぐくむとともに、環境に負荷を与えている自らの生き方を考え、環境保全に寄与する態度を養うことにつながっていくと考え、本単元を設定した。

(2) 学習対象

- ・現在、そして未来の自身や社会と密接に関係した地球環境。
- ・様々な問題の解決を図りながら持続可能な社会環境。
- ・持続可能な社会の構築につながる生き方を考える自分自身。

(3) 学習事項

- ・環境に対する豊かな感受性

自分自身を取り巻くすべての環境に関する事物・現象に対して、興味・関心を持ち、意欲的にかかわり、環境に対する豊かな感受性をもつことができるようにする。

- ・環境に関する見方や考え方

身近な環境や様々な自然、社会の事物・現象の中から自ら問題を見付けて解決していく問題解決の能力と、その過程を通して獲得することができる知識や技能を身に付けることによって、環境に関して、持続可能な社会の構築につながる見方や考え方をはぐくむようにする。

- ・環境に働きかける実践力

環境保全のためにどのような生活様式をとり、どのような実践的な行動をとるべきかなどについて考えて行動することや、自ら責任ある行動をとり、協力して問題を解決していくことなどができるようにする。さらに、日々の生活における働きかけだけでなく、持続可能な社会の構築に向けて、将来においてもよりよい環境を創造するための働きかけをすることができる実践力も培うようにする。

4 ESDを通して育てたい力

ESD-① 批判的に思考・判断する力	ESD-② 多面的、総合的に考える力
<ul style="list-style-type: none"> ・各種電化製品電力消費量一覧や温室効果ガス排出換算表などの合理的、客観的な情報に基づいて考え、地球温暖化に対する自身や他者の行動の効果・価値を判断する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガスによる地球温暖化と自然環境への悪影響を理解し、それらが自身の何気ない普段の生活を含む人類全体の活動に伴うものだと捉える。

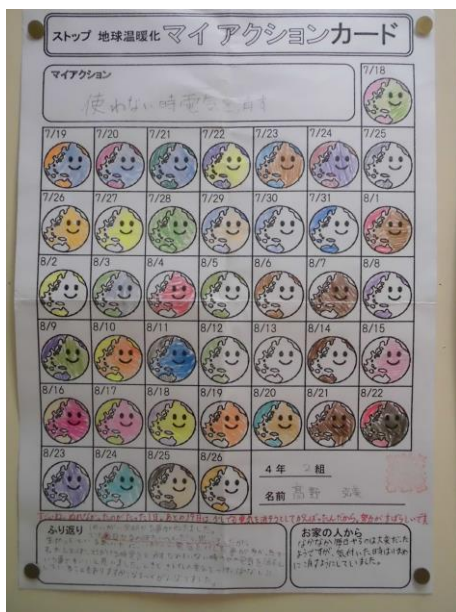
5 成果

地球温暖化について考える機会をもつだけでなく、具体的な行動を実行することで地球環境に対する意識の高まりが見られた。

【活動の様子が分かる写真】

第4学年「ストップ 地球温暖化」

第3学年「名人に弟子入りふれあいタイム」



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）